

# コティングリー妖精事件

## ——ガードナーの鞆が語る新事実——

日時 2021年6月5日（土）13時

場所 うつのみや妖精ミュージアム

講師 井村君江（妖精ミュージアム名誉館長）

### （1）背景と人物

Cottingley 村は、イングランド北東部、ヨークシャー州、ブラッドフォード近く。

メイン・ストリート31番 アーサー・ライト家

アーサー・ライトの娘エルシー（当時16歳）

ライトの妻ポリーの妹、アニー・グリフィスの娘フランシス（当時9歳）

1917年7月南アフリカから軍人の父親転勤、滞在の為に来訪。娘達が仲良しになる。

ライト家の庭続きの小川（ベック）。妖精と遊ぶ「少女と妖精」5枚の写真（創作）。

エドワード・ガードナーが調査。コナン・ドイルが記事を書く。

A.コナン・ドイル『妖精の到来』（The Coming of the Fairies 1922）

ジョー・クーパー『コティングリー妖精事件』（The Case of the Cottingley Fairies 1999）

### （2）コティングリー村の昔と今の相違点。

①ケルトの遺跡の森が新興住宅に変化。小川（ベック）沿い40～50メートル森残る。

「オーベロン・ロード」「ティターニア・クロス」「ライサンダー・ウエイ」妖精王。

②小川のケルト橋の先、岡の内側は村（城壁,フォート）

リーズ大学のブラザートン・コレクション（少女の作為、第3のベレーの少女）

66年後、83歳のエルシー創作と告白。コナン・ドイルに考慮。長いフェイク、ギネス

### （3）エドワード・ガードナーの鞆の中身。

①超常写真のコレクション 宙に浮く赤ん坊の写真、紳士と亡霊の写真等。

②ガードナーの妻アデレードの手紙（霊媒者（グラント夫人）に対する意見、コダック社等写真館）。

### （4）考慮すべき点。

①妖精＝超自然の生き物 現実には存在しない。幻想的（想像、夢）創造。

②人間の能力の限界、宇宙的未来の可能性、脳力開花の可能性の未来。

③コナン・ドイルの著作は、妖精に関するウインザー朝の一文献。

④美術を作る道具としての写真。

⑤現実を映す写真と他の世界を映す写真。

### 資料：

『妖精の到来』（The Coming of the Fairies 1922）A.コナン・ドイル・井村訳アトリエサード2021）、

『コティングリー妖精事件——イギリス妖精写真の新事実』（井村君江・浜野志保編著青弓社2021）、

『コティングリー妖精事件』ジョー・クーパー（井村訳 朝日新聞社1999）。